

平成 27 年 3 月 26 日

狛江市教育委員会
教育長 有馬 守一 様

狛江市教育委員会の自己点検
及び評価に関する審査委員会
委員長 佐藤 正志

狛江市教育委員会の自己点検及び評価に関して意見を求めること
について(回答)

平成 26 年 12 月 5 日付け狛教教学発第 101160 号をもって貴職より意見を求められ
た掲題の件について、本委員会において慎重に審議を重ね、下記のとおり結論を得
ましたので、報告します。

記

- ・今後の点検評価の運用について別紙

◆今後の点検評価の運用について

はじめに

本年度は、市において狛江市教育振興基本計画の改定作業を行ったことから、昨年度の2次答申（平成26年3月27日付け）において提言した事項のうち、「評価単位・評価対象」の具体的な検討を行うとともに、次年度に行う点検及び評価の試行として、“校庭芝生化”をテーマとした点検及び評価を行った。

本試行の結果を基に、以下、次年度以降の点検・評価の方法を提案する。

1. 評価対象の選定について

○評価事業は、第2期狛江市教育振興基本計画の各施策の重点項目や時宜に合った事業の中から審査委員会が選定する。

○評価事業数は、選定した事業の内容や分量に応じ、1年に2～3項目程度を目安とする。

評価事業は、市が今後5年間に重点的に取り組むこととしている第2期狛江市教育振興基本計画の重点項目や、評価を行う時点で社会的な注目を浴びている事象なども考慮しながら、審査委員会が選定することとする。ただし、ここでの「事業」は、予算事業に限るものではなく、事業に付随する一連の活動まで含めるものとしている*。

また、評価事業数は、事業の内容や次項に記載する評価の視点の数を踏まえて決定することとするものの、評価に費やす人的・時間的なコストも考慮し、概ね2～3項目を目安とする。

〔*例えば、評価対象を「タブレット端末の配備」とした場合は、タブレット端末を使用した学習指導等までを含めて評価の対象とする。〕

2. 評価の視点について

○評価を行う前に「教育的視点」をはじめとした評価の視点を設定する。

○評価の視点が複数存在するときは、それぞれの視点から評価を行う。

評価の視点の検討にあたり、教育委員会として評価を行う意義を検討した。市長部局においても、以前から行政評価として市の取組みの評価を行っており、そこには教育に関連する事業も対象に含まれている。この中で教育委員会が市長部局で実施している行政評価と同様の評価を行うのであれば、教育委員会が行う評価としての意義が少ないものになるであろう。教育委員会が行う評価を価値のあるものとしていくためには、教育効果など教育的見地からの評価を行うことが必要であるという結論を得た。

そのため、教育委員会が行う評価においては、事業コストなど事業の評価における基本的な視点に加え、教育的見地からの評価を積極的に行うこととする。

なお、この評価の視点の設定にあたり、第2期狛江市教育振興基本計画において強調されていた

地域や学校間，産官学，庁内との“連携”の視点や市の独自性も含めた“地域特性の活用”の視点を設定することで，第2期狛江市教育振興基本計画の推進にも繋がっていくと考えている。

3. 今後の本格実施にむけて

本年度は，来年度の本格実施に向けての試行と位置付けて事業評価シートを作成し，審査委員会による外部評価を行った。結果としては，事務局から出されたシートの記載内容は，審査会委員が求める水準に達しているとは言えなかったが，来年度は記載内容を充実させ，より深みのある自己評価を求める。

(参考：事業評価シート（試行）)

【参考】

事業評価シート(試行)
(平成 25 年度実施事業分)

平成 27 年 3 月
狛江市教育委員会

■事業開始年度 平成 18 年度

<これまでの経緯>

学校の校庭芝生化は、東京都が平成 19 年度から本格的に開始した「校庭芝生化推進事業（芝生化の設計と工事には対象経費の 10/10、芝生化後の維持管理には対象経費の 1/2 を補助）」により、東京都下の公立学校で順次実施されてきた。

狛江市では、東京都の事業開始を受け、平成 18 年度から市立学校の校庭芝生化について検討をはじめ、ヒートアイランド対策や緑化対策、児童・生徒への教育効果、地域コミュニティの形成を促すこと等を目的に校庭芝生化を実施することとした。その後、各学校と調整していく中で、校庭芝生化に熱意を示した狛江第五小学校をモデル校として選定し、20 年度に校庭の一部芝生化を実施した。その後、同様の議論、調整を経て、狛江第六小学校の校庭の一部芝生化を実施している。

現在は、この 2 校で教育委員会・学校・地域住民・校庭利用団体が相互に協力しながら維持管理を行っている。

※単位:千円

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
第五小	芝生化検討	設計	芝生化工事			維持管理			
第六小						芝生化検討	設計	芝生化工事	維持管理
経費	0	840	24,296	729	1,090	1,123	2,405	17,132	2,280
都補助金	0	840	24,296	256	159	414	1,291	14,836	375
市の負担	0	0	0	473	931	709	1,114	2,296	1,905

事業内容

◇狛江第五小（芝生化面積：1,032 m²）



◇狛江第六小（芝生化面積：480 m²）



芝生化部分

事業名	校庭芝生化	事業所管課	学校教育課
-----	-------	-------	-------

	<p><狛江第五小学校における芝生の維持管理の特徴></p> <p>狛江第五小学校では、保護者・地域住民・学校職員で形成される維持管理団体「狛江第五小学校グリーンプロジェクト」が芝生の維持管理の中心となっている。</p> <p>芝生化を実施した当初は、学校や校庭利用団体が芝生を傷めないように遠慮しながら利用していた。また、芝生の維持管理も一部のボランティアが細々と活動しているような状況であり、特定の人に負担が集中していた。</p> <p>このような状況を改善するため、PTAを中心に狛江第五小学校ならではの芝生像を構築し、他の地区の学校にも例のない取組みが生まれている。</p> <p>○PTAとの協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・維持管理団体は、PTAとは別組織であるが、お互い協力し合うこととしている。 ・維持管理団体の芝生委員になった人は、PTA役員を務めたものとみなす。 ・維持管理団体が行う芝生イベント等の予算はPTA予算から積み立てている。 <p>○学級単位での維持管理への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級単位で年1回ずつ当番を割り当て(自由参加)、参加可能な担任・児童・保護者で芝刈り等の作業を実施し、終了後は芝生でゲーム等を行って親睦を深めている。 <p>これらの取組みは、校庭芝生リーダー養成講座(東京都主催)において優れた維持管理の事例として発表するなど、芝生化に取り組む学校の見本にもなっている。</p> <p>また、芝生化後、徐々に、多少傷んでもいいから芝生を活用しよう、という共通認識が持てるようになり、維持管理の安定とも相まって芝生が積極的に活用されるようになった。</p> <p>○教育委員会の支援</p> <p>教育委員会は、維持管理団体や学校との芝生会議に毎月出席し、助言や調整を行うなど、芝生に関する問題の解決に向けて協力している。また、芝生の知識習得や技術向上のための研修や勉強会を開催したり、イベントの協力を行っている。</p>
--	---

評価の視点の設定	<p>事業内容のとおり、学校における校庭芝生化は、教育的効果のほか環境保全や地域コミュニティの形成など、様々な側面を持っている。これらの側面ごとに視点を設定し、点検及び評価を実施する。</p> <p>なお、25年度は狛江第六小学校は芝生化工事中であったことから、今回の評価は主に狛江第五小学校の取組みを中心に行っている。</p>
----------	--

事業名	校庭芝生化	事業所管課	学校教育課
-----	-------	-------	-------

■自己点検及び評価の結果

		関係課	環境政策課																																																																	
評価の視点 I	環境保全の視点																																																																			
具体的内容	他の学校ににおける緑化の手法（屋上緑化・壁面緑化等）との関係はどうか。	市全体の緑化との関係はどうか。																																																																		
成果・分析 (平成25年度)	<p>狛江市立学校では、平成23年5月に狛江市学校緑化基本方針を策定し、校庭芝生化のほか屋上緑化、壁面緑化、樹木等の植栽により、各学校で緑化に取り組んでいる。</p> <p>このうち、緑のカーテンと樹木等の植栽は、概ねすべての学校で行われている。</p> <p>◇学校別緑化状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>校庭芝生化</th> <th>緑のカーテン</th> <th>屋上緑化</th> <th>壁面緑化</th> <th>樹木等の植栽</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一小</td> <td></td> <td>※</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>第三小</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>第五</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>第六小</td> <td>●</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>和泉小</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>緑野小</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>第一中</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>第二中</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>第三中</td> <td></td> <td>※</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>第四中</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>○既設 ●25年度設置 ※第一小は27年度設置予定 ※第三中は26年度に設置 (平成26年3月末現在)</p>		校庭芝生化	緑のカーテン	屋上緑化	壁面緑化	樹木等の植栽	第一小		※			○	第三小		●			○	第五	○	○			○	第六小	●	○			○	和泉小		○	○		○	緑野小		○	○		○	第一中		○			○	第二中		○		○	○	第三中		※			○	第四中		●			○	<p>○緑の創出について</p> <p>市では、平成25年3月に狛江市緑の基本計画を策定し、「みんなで活かして・つくり・育てて・継ぐこまへの緑」を基本方針として、緑豊かなまちづくりを進めていくこととしている。</p> <p>緑の基本計画では、それぞれ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑地率目標 30% (22年度 23.81%) ・緑被率目標 29% (22年度 26.05%) <p>を目標に掲げ、都市公園の緑地整備や公共施設の緑化、校庭等の緑化を推進することとしている。</p> <p>また、このうち学校における緑被率の目標は25% (22年度 22.80%) となっている。</p> <p>○緑の活用について</p> <p>緑の基本計画では、緑の活用としていくつかの方針を示しているが、このうち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育と連携した緑に関する学習機会の充実 ・緑の場を活用したコミュニティの場の創出 <p>の2点の方針について、狛江第五小学校の取組みは大きく寄与していると言える。</p> <p>狛江第五小では、教育の場で芝生を活用するとともに、児童・保護者、地域住民等で組織する「狛江第五小学校グリーンプロジェクト」により、日常の芝生の維持管理が行われ、芝生で地域のイベントも行われている。</p>
		校庭芝生化	緑のカーテン	屋上緑化	壁面緑化	樹木等の植栽																																																														
	第一小		※			○																																																														
	第三小		●			○																																																														
	第五	○	○			○																																																														
	第六小	●	○			○																																																														
	和泉小		○	○		○																																																														
	緑野小		○	○		○																																																														
	第一中		○			○																																																														
	第二中		○		○	○																																																														
第三中		※			○																																																															
第四中		●			○																																																															
今後の課題	<p>校庭芝生化は、他の緑化手法より各側面で大きな効果が期待できるが、維持管理にかかる経費や労力の負担も大きい。現在、学校では緑のカーテンの設置を順次行っているが、緑の基本計画では、市の目標として学校における緑被率の目標値も設定されていることから、今後の緑化の手法を検討する必要がある。</p>																																																																			

事業名	校庭芝生化	事業所管課	学校教育課
-----	-------	-------	-------

関係課	指導室
-----	-----

評価の視点Ⅱ	学校教育の視点	
具体的内容	授業での活用状況はどうか。	授業以外の場面での活用状況はどうか。
成果・分析 (平成 25 年度)	<p>授業では、いくつかの教科において芝生を活用している。</p> <p><国語></p> <p>情操豊かな心を育てることを目的に、詩をよむことや、高学年から低学年への読み聞かせを芝生で行っている。</p> <p><理科></p> <p>3年生の色々な場所の温度を測定する授業を芝生で行っている。土の上と芝生の上の温度を比較して、様々な地面の温度や湿り気の違いを学んでいる。</p> <p><図工></p> <p>4年生では芝生を活用した授業「はだしになって布と仲良くなろう！」を行っている。児童は芝生の上に寝転がりながら大きさが違ういくつかの布を使用して、さまざまな表現や遊び方を考えた。この授業では、最初に布を渡さずに、芝生の上で寝転んで芝生の感触を感じることからスタートする。まずは気持ちを開放し、風や光や芝生の感触を感じてから、布を渡すことにより、児童は素材を体で感じるようになり、より自由な発想を引き出すことの一助となっている。</p> <p><体育></p>  <p>主に組体操や陸上を芝生で行っている。特に、組体操の練習では、芝生化前</p>	<p>授業以外の場面では、休み時間などの外遊びや芝生自体の維持管理を通じて、児童の発達やクラスづくりに繋げている。</p> <p><外遊び></p>  <p>芝生面ができたことにより、芝生化前と比較すると休み時間に外遊びをする児童が増え、昼休みには低学年を中心にとっても混み合っている。しかしながら、芝生での大きな事故やケガもなく、芝生を使って児童は上手く遊んでいる。また、体育での側転等の練習に自ら取り組む児童も増え、児童の積極性の向上に繋がっている。</p> <p>芝生の養生期間では外遊びをしている児童は全体の約7割であるが、芝生が使用できる期間では、それが約9割に増えている。</p> <p><児童の維持管理への関わり></p> <p>○学級単位での芝刈り作業の様子</p>  <p>学級単位で年1回、休日に行う芝刈りや草抜きの作業では、担任と参加した児童、</p>

事業名	校庭芝生化	事業所管課	学校教育課
-----	-------	-------	-------

	<p>と比べて、児童が怖がらずに取り組むようになった。また、低学年では、足で地面をつかむ感覚を実感させることをねらいとして、裸足で芝生の上を走る授業を行っている。</p> <p><総合学習></p> <p>5年生が環境のことを考える時間として芝生を活用している。また、他にも実際に触れられる生きた教材として、環境教育への児童の理解や意識付けに役立っている。</p>	<p>保護者が芝刈り等の維持管理作業を行っている。この作業の後、芝生で行うゲーム等も通じて学級の親睦を深めている。</p> <p>授業以外の場面での児童と担任のふれあいに保護者も参加できることから、担任と児童・保護者の間で幅広い関係が築かれ、クラスづくりの一助ともなっている。</p> <p>[保護者アンケートの主な回答]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス単位の作業になって良かった。楽しかった。 ・来年度もふるって参加したい。 ・ボランティアだと参加しづらかったが、このシステムのおかげで参加できた。 ・子ども達が遊ばせてもらっている芝生に親子共々触れることができ、楽しかった。
<p>今後の課題</p>	<p>授業においては、芝生の活用を通じた一定程度の効果は見られるが、例えば芝生面ではボールが弾まないなど多くの球技には不向きであったり、芝を傷めるなわとびや綱引きができず、授業を展開する中での制約も出てきている。授業の内容に応じて、土と芝生の使い分け等の工夫は今後も行っていく必要がある。</p> <p>児童においては、芝生の維持管理にもかかわるようになってきたが、学校としても児童に芝生を育てることをさらに学ばせたいという思いがある。限られた授業時間の中でどのように無理なく取り入れていくか、工夫していく必要がある。</p>	

事業名	校庭芝生化	事業所管課	学校教育課
-----	-------	-------	-------

		関係課	—
評価の視点Ⅱ	地域との連携の視点		
具体的内容	芝生を利用した地域との連携は図られているか。	地域の活性化に寄与できているか。	
成果・分析 (平成 25 年度)	<p><維持管理での関わり> 芝生の維持管理団体「グリーンプロジェクト」は、地域住民・保護者・学校で形成されており、芝刈り等の維持管理作業には、他にも多くの地域住民が参加している。また、芝生化の検討段階でも近隣住民が多数参加しており、学校とともに芝生像を考えてきた。</p> <p>また、維持管理には狛江第五小学校の卒業生や近隣の中学校も参加している。</p> <p><イベントでの関わり> 毎年、お盆の時期に「サマードリームデー」として、維持管理作業の参加者にかき氷をふるまうイベントが開催されている。趣旨に賛同した御台橋商栄会や緑野小PTAも参加し、イベントに協力している。</p> <p><休日の校庭利用での関わり> 少年野球や少年サッカーで狛江第五小学校の校庭を利用している団体は、主にウォーミングアップやクールダウン、トレーニング等に利用している。それらの団体も積極的に芝刈り等の維持管理に参加している。</p> <p><保育園・幼稚園との関わり> 近隣の保育園や幼稚園の園児を招き、芝生で遊んでもらう取組みを行っている。保育園・幼稚園と小学校の連携の場に活用されている。</p>	<p>学校と維持管理団体、関係部署が協力して、地域住民が気楽に学校の芝生を楽しめるような各種イベントを開催している。</p> <p>○五小夏まつり 毎年夏に開催される五小夏まつりでは、芝生面を活用したキックターゲットやスプリングランナーで遊ぶイベントを実施している。</p> <p>○お琴とお抹茶を楽しむ会 地域住民を対象として、ふるまわれるお抹茶を飲みながら近隣のお琴クラブや狛江高校箏曲部による琴の演奏を楽しむイベント「お琴とお抹茶を楽しむ会」が開催された。当日は、日頃からの感謝の気持ちを込めて、児童が参加した地域住民にお抹茶を給仕した。</p>  <p>○餅つき大会 K o K o Aが主催して、地域住民も参加する餅つき大会を開催し、地域交流の場となっている。</p> <p>○地区班（子ども会） 地区班（子ども会）にも、交流会のイベントとして活動場所として提供しており、子どもたちは芝生の上でゲーム等のイベントを楽しんでいる。</p>	

事業名	校庭芝生化	事業所管課	学校教育課
-----	-------	-------	-------

今後の課題	<p>芝生を活用したイベントが地域と連携して行われるようになっているが、学校施設には、通常の教育活動に加え、放課後対策や市民開放等の事業による使用がある。特に放課後対策は、社会的にも問題となっており、教育委員会としても市長部局の取組みに積極的に協力していく必要がある。今後は、これらの関係者とも協力・調整しながら、芝生の十分な活用を図っていけるよう、検討していかなければならない。</p> <p>また、地域活性化に向けたイベントにはボランティアの協力が欠かせないが、継続的な取組みとしていけるよう、一部の人に負担が集中しないよう配慮していく必要がある。</p>
-------	--

自己点検及び評価の総括

視点Ⅰの「環境保全の視点」では、校庭芝生化が一年中緑と直接触れ合える点等から他の緑化より効果が期待できることや、狛江第五小学校での取組が市の緑化計画である狛江市緑の基本計画に掲げられている施策の実現に寄与していることが確認された。

視点Ⅱの「学校教育の視点」では、新たな試みが多く実践されている。また、様々な授業で芝生を活用する試みが実施され、児童が維持管理に無理なく関わられるような工夫としてクラス単位の作業が開始された。

視点Ⅲの「地域との連携の視点」では、新たに園児を招いて芝生で遊んでもらう試みが実施され、その他の地域との連携や地域向けのイベントを通しての地域活性化への寄与の活動も成熟してきたと思われる。

また、地域住民・学校・市が協働して芝生を維持管理し、地域活性化へ向けた取組は、狛江市第3次基本構想に掲げられている「参加と協働でつくる自治のまち」「水と緑を活かした生活環境」「活気と優しさがあふれる地域社会」のいずれにも合致している。

いずれの視点においても一定の成果が期待できるようになってきており、今後もこれらの取組を継続・発展させていきたい。

ただし、校庭芝生の維持管理には大きな手間やコストを要することから、今後の学校芝生化に対応できる体制整備は、事業の効率化も含めて改めて検討する必要がある。現在の限られた人員や財源の中で芝生を良い状態のまま維持していくことができるか。今後の展開は長期的な視点に立って、慎重に検討していく必要がある。

■ 審査委員会の意見

個別視点

【環境保全の視点】

緑化手法の中では比較的成本がかからず、児童・生徒が維持管理に関わりやすい緑のカーテンから取り組んでいったことは理解できる。それに対し、校庭芝生化は、他の緑化より様々な効果が期待できる一方で、設置や維持管理に大きなコストと労力がかかるため、27年度に緑のカーテンが全校設置できた後の学校緑化の方向性は、今後さらなる検討が必要であろう。

【学校教育の視点】

学校教育の視点では、授業においても授業以外においても、いくつかの工夫した取組がみられ、有効に活用できていることが認められるので今後も発展させていただきたい。特に、現在芝生化されている学校の教員には、芝生をどのように生かすことができるか、もっと考えていただきたい。

また、そのためにも、芝生化による効果測定（検証）を望みたい。現場の実感として怪我の減少や外遊びが増加していることが触れられているが、これを数値で示すことができれば、今後の発展とともに運用の改善にも繋がっていくであろう。

【地域との連携の視点】

地域との連携の視点でも、いくつかの工夫した取組がみられる。さらにこのような芝生を通して多くの方々が関われるような取組が増えることを期待する。

ただし、今後さらに芝生を活用するためにも開放の仕方を考える等の検討が必要であろう。狛江第五小学校であれば、校庭開放の時は、グラウンド面と芝生面とを分けて貸し出すなど、芝生面のさらなる活用に向けた方策を検討していただきたい。

全体

芝生化については、全体として様々な効果が認められるが、現状で校庭を芝生化しているのは2校だけであり、今年度は1校しか検証できなかった。また、その1校も、維持管理団体を中心に多くのボランティアに支えられており、地域特性や校庭の使用形態等を踏まえると、他の学校で実施しても同じようにできると考えるべきではない。芝生化のメリットにとらわれ過ぎて安易に校庭芝生化を進めるのではなく、デメリットも検証して、最適な学校緑化を見極めてほしい。

また、狛江第五小学校では芝生の維持管理が軌道に乗り、効果的に芝生が活用されているが、狛江第六小学校においては狛江第五小学校の良い部分で参考にできるところは取入れ、一方で狛江第五小学校のやり方に拘ることなく、学校や地域の特性にあわせた工夫をし、第六小学校らしい独自の取組みを展開されることを期待したい。